



主な内容

12年の地域創造活動	身近な社会資本の見学会
副理事長 清水 洋一…… 1	新潟地域整備部長 原山 茂…… 3
これからの社会インフラの担い手として	活動状況報告…… 4
新潟県土木部長 高橋 猛…… 2	河川情報モニター実施報告及び
活動報告…… 2	都市公園情報モニター実施報告…… 5



## 12年の地域創造活動 ～定着した活動～

副理事長 清水 洋一

師走となり寒くなりましたが、大きな災害もなく締めくくれそうな一年です。

会員の皆様には、日頃から当NPO法人にいがた地域創造センターの運営に対し、心強いご支援とご協力を賜わり、改めて心から感謝を申し上げます。

当センター設立の背景は、遡ること20年前の阪神・淡路大震災でNPOやボランティア団体による救援活動、復興支援の成果が高い評価を受けたことに始まります。その重要性が再認識され、福祉、環境、国際協力、まちづくり、災害時の応援など様々な分野においてNPO等による社会貢献活動が活発化し、定着してきた状況となりました。我々の先達らも永年培った建設技術や行政経験を生かしながら、まちづくり、災害対応、社会資本施設の維持・保全などについて、多様な形態で社会貢献をしたいとの思いで、平成15年10月当センターを設立しました。

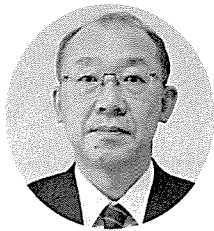
12年経た活動を紐解いてみると、平成16年には新潟県都市緑花フェアへの後援を開始し、同年7.13新潟豪雨災害及び10.23中越大地震での災害支援活動を行ったことで、当センターが行政的視点及び技術的知見を有することが評価され、平成18年には新潟県知事と「防災業務の応援に関する協定」を締結しました。更に度重なる水害を契機に県では河川巡視計画を見直し、平成18年から行政と技術の知見を有する当センターに河川管理者の補助として河川巡視する河川情報モニターの依頼がなされ、今日132河川1,090Kmに至っています。また、指定管理者に委託している県の公園管理について、利用者の視点を反映するための都市公園情報モニターに平成22年からボランティアとして参加している他、県の災害研修に講師の派遣をしています。

平成24年からは、地域に出向き当センターの紹介と正会員・賛助会員、その他の方々との意見交換を通じ、地域整備部と参加者の橋渡しの役目を果たせたらとの思いから、「地域懇談会in村上」を開催し、平成26年に糸魚川、今年は十日町で開催し、参加者から毎年開催を要望されるなど好評でうれしい限りです。

県土木部が平成25年度重点事業として立ち上げた「地域を支える建設産業の底力発信事業」について、新潟地域整備部から、未来の建設産業を担う高校生を対象にした「身近な社会資本の見学会」に関する企画・運営の委託を受けました。初年は新潟工業高等学校土木科31名を対象とし、通船川「山ノ下閘門排水機場」の重要性について理解を深めることを目的に、「通船川の成り立ちと役割」、「模型による新潟の地盤沈下の状況」などの講義と、実際に信濃川と通船川の水位差を乗船して体感するとともに、合わせて県営貯木場の利用状況など閘門以外の施設の重要性も確認していただきました。平成26年は新潟県中央工業高等学校建築及び都市防災コースの2年生計36名、平成27年は新発田南高等学校土木工学科3年生36名の参加を得ました。生徒さんへのアンケート・レポートの結果も大変好評で、建設産業の魅力と重要性を十分伝えることができたと考えています。

これらの活動が定着していることは、目的である郷土の地域活性化のための地域貢献活動として皆様から一定の評価を得ているものと確信し、これからも地道に活動を継続していく覚悟を新たにいたしましたところでもあります。

最後になりますが、今後も将来を見据えた地域貢献活動にじっくり一歩ずつまい進したいと考えておりますので、県ご当局をはじめ会員及び賛助会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。報告といたします。



# これからの社会インフラの 担い手として

新潟県土木部長 高橋 猛

特定非営利活動法人にいがた地域創造センターの皆様におかれましては、日頃から本県の土木行政の推進に御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

さて、我が国はこれまで先人達から築き上げてきた社会インフラ資産の恩恵を受け、産業の発展と高度化が進められるとともに、人々は快適な日常生活を営んできました。一方で、近年加速するインフラの老朽化や多発する自然災害の脅威、さらには人口減少と少子高齢化により顕著となった都市と地方の生活環境格差の拡大など、多くの課題に直面しています。

このような中で、これまで長く続いた公共投資の減少傾向によりやく終止符が打たれはじめ、幾多の災害を契機に建設業の役割が見直されるとともに、その重要性が社会的に認識されつつあるなど、社会資本整備に携わる者にとって大きな転換期を迎えております。今こそ県民の安全と安心を守り、快適な暮らしを提供するという我々の使命を再認識し、自分の仕事に自信と誇りを持って取り組んでいくことが重要ではないかと考えています。

私たちには、時代に即した新たな価値と機能をデザインした社会インフラを構築し、それを持続させることにより、次世代により良い資産として引き渡す使命があります。そのためにも、将来を担う若手就業者の人材確保・育成とともに定着化に向けて、着実に取り組んでまいりたいと考えております。

今後とも建設技術を通じて社会貢献を担う貴センターの様々な活動に期待するとともに、皆様の益々の御発展を心から祈念いたします。

## 「第3回 地域懇談会 in 十日町」活動報告

### 事業部

当法人は、まだ「知名度」が低いのではとの思いで、こちらから各地域に出向きPRする地域懇談会をスタートさせ、最初は村上、次に糸魚川で開催し、第3回の今回は豪雨災害への対応が一段落した十日町地域を開催地としました。

平成27年11月5日（木）に正会員22名、賛助会員14名、県・市関係7名、一般参加者20名、総数63名での懇談会となりました。

懇談会第一部では、当法人の山岸理事長から支援等に対して御礼の挨拶を皮切りに、齊木事業部長から当法人の設立趣旨や、事業活動と賛助会員のメリットなどを紹介し、一般参加者の賛助会員への入会と支援をお願いしました。

次に講演として、今年当地域で開催された「大地の芸術祭」と「地方創生」について十日町市産業観光部長の渡辺正範氏から、全国で同じような催しが行われているが、当地域が全国に先駆けて行ったこ



とや、点在する作品には各地域の住民の協力と理解が不可欠であること、どのような方々がこられるかなど多方面から分析し、新たな地場産の商品開発や地域づくりに取り組んでいることなどについてお話していただきました。また、今回は新たに土木構造物（セルダム）が主役の芸術作品もあり地域整備部の協力に謝意を述べられました。

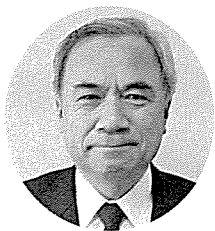
最後に、「十日町管内における最近の話題」として十日町地域整備部長の小泉良彦氏から、予算状況、今後の事業展開、管内の建設業の現状及び社会基盤整備が生活に貢献する情報発信の取り組みと3K職場からの脱却などについてご講演いただきました。

意見交換を深める第二部の懇親会では、新潟県建設業協会十日町支部の村山支部長が挨拶の中で、「このような大変有意義な会は、十日町で年一回程度実施してはとほどうか」との提案を交えてお話があり、また「当センターの存在を知らなかったが是非入会したい」などのお話もいただくなど、大変有意義な意見交換となりました。

この懇談会終了翌日からは、新規入会の申込が数社届いており、地域懇談会開催による一定の成果があったものと考えています。

参加頂きました県・市関係、正会員、賛助会員及び一般企業の皆様に厚くお礼申し上げます。

## NPO法人にいがた地域創造センターと連携した 地域を支える建設産業の底力発信事業



# 身近な社会資本の見学会

新潟地域整備部長 原山 茂

県では、地域を支える建設産業の振興のため、その魅力と重要性を県民に広く発信するとともに、入職促進にも取り組んでいます。災害から地域を守る建設産業の重要性が注目される中、将来の建設産業を担う工業系の高校生に建設産業をより深く知ってもらうため、平成25年からNPO法人にいがた地域創造センターと新潟地域整備部との協働により「身近な社会資本の見学会」を開催しています。

今年の見学会は平成27年10月9日（金）に開催し、新潟県立新発田南高等学校土木工学科の3年生36名に参加していただきました。

2班に分かれて、新潟地域のゼロメートル地帯や通船川の成り立ち、山の下閘門排水機場の役割等を映像や模型を使って学習したり、閘門では通船川と信濃川の水位差約2メートルを乗船して体感したほか、通船川に架かる橋梁下面の状況を確認しました。最後に全員で朱鷺メッセ展望室から通船川流域を鳥瞰して、学習・体験したことの振り返りを行いました。

参加者へのアンケート結果は大変好評であり、建設産業の魅力と重要性を十分に伝えることができたと考えております。

最後になりますが、見学会の企画・運営をしていただいた、にいがた地域創造センターの皆様にお礼を申し上げますとともに、今後のますますの御発展をお祈り申し上げます。

### 見学会体験者の感想 (県立新発田南高等学校生徒)

■通船川をはじめ、山の下閘門排水機場や周辺の河川についての歴史、役割について多くのことを学ぶことができました。また、VTRでは新潟県土木部の取り組みやインタビューを通じ、改めて土木事業の魅力を感じました。

来春から県内の建設業を担う一員として、地域の方々と共に豊かな街づくりをし、新潟県を盛り上げていけるよう精一杯努力していきます。

■普段生活しているだけではあまり気にとめず、気づかないものも多いが、その一つ一つが私たちが安全に生活していくのに欠かせないものだということを実感することができました。

排水機場などの施設がなければ大雨が降った際には大変な水害になる恐れがあり、普段の生活ができなくなってしまうということを、土木を知らない人たちにもっともっと理解して欲しいと思いました。

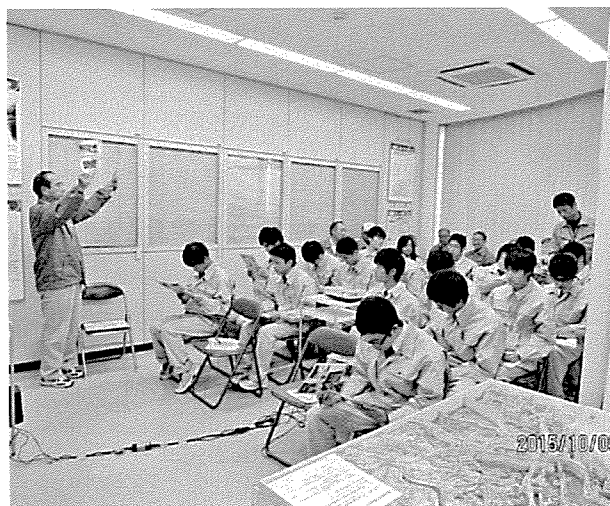
■朱鷺メッセの展望室から景色を平面として見ることができ、とても良かった。

時間が少し押ししていたのが残念だった。民間企業に就職するのですが、私たちがこれから行う仕事は生活を支えるために必ず必要だということを実感することができて良かったです。

### 受託者の感想

対象高校生からは、体験学習を振り返り参加生徒全員から感想をいただきました。

一部を抜粋して前記に掲示しましたが、「土木事業は大切である」、「土木に魅力を感じている」、「もっともっと土木のことを知らせるべき」、「自分も新潟県を縁の下で支えたい」など、今後の見学会事業のあり方を検討する上でも、ポイントとなる多くの内容が表現されており、今回の事業が今後の建設産業への担い手育成支援に有意義であったものと考えています。



# 活動状況報告

(平成26年11月～平成27年10月まで)

## ■平成26年

- 11月12日 第42回 理事・監事会議  
(新潟県建設技術センター会議室)
- ・平成26年度総会の開催について
  - ・平成25年度決算について
  - ・平成26年度予算(案)について
  - ・総会時の講演会について
  - ・身近な社会資本の見学会について
  - ・地域懇談会(糸魚川)の実施経過について
- 植木理事長以下17名(全21名)
- 12月19日 第43回理事・監事会議  
(新潟東映ホテル3階会議室)
- ・新理事・監事の就任及び承諾について
  - ・平成26年度総会資料の確認について
- 植木理事長以下19名(全21名)
- 第44回理事・監事会議  
(新潟東映ホテル3階会議室)
- ・理事長・副理事長の互選について
  - ・講演会・懇親会の理事の役割について
- 山岸理事長以下23名
- 平成26年度通常総会 (新潟東映ホテル)
- ・平成25年度事業報告及び収支決算の承認について
  - ・平成26年度事業計画及び収支予算(案)について
  - ・役員の変更について
- 正会員310名  
内 出席者107名 委任状提出者138名
- 講演会及び懇親会 (新潟東映ホテル)
- ・講師：気象庁新潟地方気象台観測予報課  
気象情報官 小谷内 浩氏
  - ・演題：私たちの生活と気象情報について

## ■平成27年

- 2月10日 「底力事業の振り返り・次年度要望」意見交換会  
監理課・新潟地域整備部：4名、  
NPO：22名、計26名
- 2月17日 河川情報モニター地域担当者会議  
(技術士センタービル8階)
- ・新潟県の河川管理について
  - ・平成27年河川情報モニターの実施計画について
  - ・河川情報モニター実施に関する問題点等について
- 河川管理課：4名、地区担当者：20名、  
NPO：7名、計31名
- 4月26日 第28回新潟県都市緑化フェア  
(新潟県スポーツ公園)
- 山岸理事長以下5名



- 5月25日 都市公園情報モニター担当者会議  
都市整備課：5名、地区担当者：12名、  
NPO：6名、計23名

- 7月14日 第45回理事・監事会議  
(建設技術センター会議室)
- ・身近な社会資本の見学会(仮称)について
  - ・地域懇談会について
  - ・NPO支援の研修実施状況及び防災業務
  - ・災害現場、研修講師などの防災応援業務アンケート結果について
  - ・平成27年度総会の講演会の講師について
- 山岸理事長以下16名(全22名)
- 7月15日 にいがた道の研究会第13回トーク会  
(新潟会館)
- [支援事業]
- ・会員、一般市民及び県関係者 約70名
- 7月18～27日 パネル展「道の駅 あらい」くびき野情報館
- (万内川砂防公園サマーフェスティバルの一環事業)
- [支援事業]
- ・来場者、スタッフ(会員含む) 約540名
- 8月8日 万内川砂防公園サマーフェスティバル  
(万内川砂防公園)
- [支援事業]
- ・来場者、スタッフ(会員含む) 約1,570名
- 9月14日 「身近な社会資本の見学会事業」担当者会議  
(新潟地域振興局会議室)
- ・「身近な社会資本の見学会」の実施概要について
  - ・実施日：10月9日、予備日10月13日
  - ・実施日の担当及び役割について
- 新潟地域整備部：3名、  
NPO：18名、計：21名
- 10月9日 「身近な社会資本の見学会事業」の実施  
(新潟県土木部広報事業)
- ・対象者：新発田南高校生徒36名、引率者2名
  - ・学校側の希望から、半日で実施
- (NPOは2班体制で対応)
- ・新潟地域における地盤沈下の状況を模型を使用して説明
  - ・乗船し信濃川と通船川の水位差を体験及び橋脚や橋桁の状況見学
  - ・朱鷺メッセ展望台からの新潟市東地区における信濃川・通船川及び山ノ下閘門の位置及び役割を確認
- 土木部企画調整室：東海林室長以下2名、  
新潟地域整備部：鈴木副部長以下2名  
NPO：山岸理事長以下21名



- 10月15日 第46回理事・監事会議  
(建設技術センター会議室)
- ・地域懇談会(in 十日町)について
  - ・平成27年度総会の開催日、講演会講師について
  - ・補助金申請について
- 山岸理事長以下20名(全22名)

# 河川情報モニター実施報告

企画部

県職員が行う通常巡視の補完業務としての河川情報モニター活動も10年目となりました。平成27年は、151名（延べ502名）の会員の皆様のご協力により、4～10月で4回程度132河川の巡視を無事に行うことができました。ありがとうございました。

しかし、会員の高齢化、一部地域での会員数の不足など、いくつかの課題を抱えており、今後の活動に影響が出ないような工夫が必要になっております。会員の皆様におかれましては、ふるさと貢献など地域を越えたご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。

## ■平成27年（4～9月）河川情報モニター活動状況

地域機関名	地域担当者		巡視河川数	巡視河川延長 (km)	NPO 配置人員	NPO実施回数 延人員
	主任	副任				
村上	伊藤 勝夫	高橋 一男	9	23.5	5	12
新発田	渡邊 秀美	渋谷 吉則	1	27.0	10	35
新津	武田 光男	佐藤 俊治	32	118.1	21	73
津川	永井 将裕	伊藤 恒彦	4	15.5	3	9
新潟	鈴木 政義	高橋 英一	6	45.6	12	12
巻	真田 明	高橋 宗男	7	138.4	13	45
三条	河内 孝	星野 正三	13	110.6	8	32
長岡	吉野 利夫	清水 洋一	9	111.9	28	103
与板	吉野 利夫	清水 洋一	3	47.0		
小千谷	吉野 利夫	清水 洋一	10	39.0		
魚沼	小幡 利永	磯部 剛	2	36.4	3	12
十日町	田口 耕平	井口 久雄	7	59.7	12	36
南魚沼	星野 正昭	中澤 淳一	3	30.2	4	13
柏崎	赤堀 洋一	関矢 勝広	3	49.2	6	24
上越・上越東	大塚 和雄	金子 進	9	137.3	16	62
糸魚川	金子 進	大塚 和雄	3	40.6	4	10
佐渡	佐々木和敏	小鷹 賢正	11	56.0	6	24
計			132	1,086.0	151	502

# 都市公園情報モニター実施報告

企画部

県では、平成19年より都市公園を利用する県民の視点を公園管理（指定管理者への指導など）に取り入れるため、「都市公園情報モニター」を募集しておりました。NPOにいがた地域創造センターとしては、平成22年からボランティアとして参加しており、おおむね年4回モニター報告をしています。

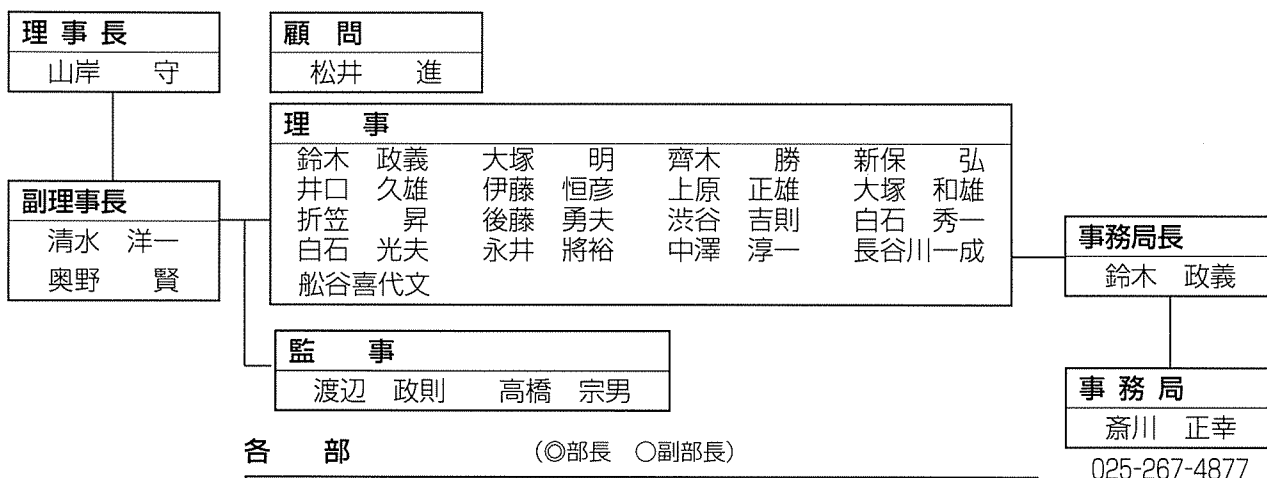
## ■平成27年 都市公園モニター担当者

公園名	担当者	
	主任担当者	補助担当者
紫雲寺記念公園	鈴木 輝正	白石 光夫
聖籠緑地・島見緑地	伊藤 勝夫	長谷川一成
鳥屋野潟公園女池・鐘木地区	永井 将裕	鈴木 政義
スポーツ公園北地区	真田 明	岡部 登
スポーツ公園南地区	奥野 賢	品田 吉廣
県立植物園	後藤 勇夫	寺尾伸英一
大潟水と森の公園	諏訪部 豊	金子 進



□当NPO法人の役員（任期2年）及び各部員は次のとおりです。

◆組織図（理事20、監事2）



<b>総務部</b>	◎鈴木 政義 井口 久雄 石川 幸作 串田 鉄夫 ○折笠 昇 齋藤 和幸 鈴木 久志 永井 将裕
<b>企画部</b>	◎大塚 明 上原 正雄 白石 光夫 外山 晃 ○渋谷 吉則
<b>事業部</b>	◎齊木 勝 伊藤 勝夫 真田 明 徳永 哲夫 ○中澤 淳一 深川 祝夫 古嶋 秀一 本田 敬二
<b>広報部</b>	◎新保 弘 大塚 和雄 鈴木 輝正 高橋 英一 ○伊藤 恒彦 長谷川一成 藤田 太子

## 会員の動向

〈会員数〉

会員区分	設立総会時 H15.6月	平成20年度 H20.11月	平成21年度 H21.11月	平成22年度 H22.12月	平成23年度 H23.12月	平成24年度 H24.12月	平成25年度 H25.12月	平成26年度 H26.12月	平成27年度 H27.12月
正 会 員	164	285	288	295	292	293	296	298	298
賛 助 会 員	個人	-	1	1	1	1	1	1	1
	法人	-	174	163	152	152	152	156	157
計	164	460	452	448	445	446	453	455	456

## 編集後記

街路樹のイチョウの葉が散り、歩道を黄色く染める季節となりました。

お忙しい中、ご寄稿いただきました皆様、ありがとうございました。

幸いなことに、今年の県内は大きな災害も無く、比較的平穏な1年でした。

今後も建設技術を活かした社会貢献活動を通じて、子供たちや孫たちが平穏な暮らしを続けられるように、安全・安心・快適な環境の創造に寄与できればと思います。(H.S)



特定非営利活動法人(NPO法人)

にいがた地域創造センター

理事長 山岸 守

〒950-1101 新潟市西区山田2522-18  
(財)新潟県建設技術センター内3階  
TEL/FAX (025)267-4877